

私たちの生活、身の回りのできごとを通して親子で考えてもらう新企画「くらしの中から考える」。初回のテーマは「お小遣い」。最近、毎月〇〇円と決まった額をもらうのではなく、必要な時に必要な額をもらう形も増えているとか。皆さんはどっちがいいですか？
(平井一敏)

くらしの中から考える

お小遣い

金融広報中央委員会(事務局・日本銀行)が二〇一五年度に行なった調査によると、月々決まった額をもらう定額制の平均は、小学五・六年生が千円、中学生が二千五百円、高校生が五千円だそう。

お小遣いの語源は「小遣い銭」で、食費など生活に必要なお金とは別に自由に使えるお金のこと。「無駄遣いが心配だからと、親が使い道に口を出すのはよくない」と子ども

◆ 月1回定額制

もの金銭教育や家計に詳しいファイナンシャル・プランナー(FP)の竹谷希美子さんは話す。

「自分で無駄遣いを反省したり、我慢をしたりする経験も大切」。社会に出て働けば、多くの人は毎月もらう決まった額の給料の中から、食べ物や洋服を買ったり、家賃

や電気代などを払ったり、やりくりする必要がある。「定額制は計画的にお金を使う練習になる」と勧める。

小学生のうち、漫画や食べ物など事前に決めた使い道ごとに、箱や袋に分けてお小遣い。中学生になったら、友達と遊びに行くときの交通費や飲食代などお小遣いで賄

計画的に使う練習に

う範囲を広げるといい。ただ、月の途中で足りなくなっても、追加や前借りをねだるのはだめだ。

お小遣いとは別に、お年玉の一部を、友達へのプレゼントなど特別な時に充てるお金としてもらうておくことを提案するのは、同じくFPの横山光昭さん。大人になると、税金や保険料など一年ごとの支出もあり「お金の使い方を管理する力が身につく」と話す。

無駄遣いの心配なし

しをすることになっても困らないだろう。

- 1 お菓子やジュース
2 ゲームソフトやおもちゃ
3 漫画



- 1 友達との外食・軽食代
2 おやつなどの飲食物
3 友達へのプレゼント



- 1 友達との外食・軽食代
2 おやつなどの飲食物
3 休日に遊びに行くときの交通費



小学生
5・6年生

中学生

高校生

お小遣いの使い道ランキング

※金融広報中央委員会「2015年度子どもくらしとお金に関する調査」



毎月一回でなく、「漫画や菓子を買いたい」「友達と映画を見に行きたい」など必要に応じて必要な金額をもらえらうという家庭もあるだろう。この方法だと親にお小遣いの使い方を管理してもらえ、無駄遣いの心配がない。

ただ、何千円もするゲームソフトなどが欲しい時は、親も簡単に「はい、はい」とは言わない。そつした時に備え、風呂洗いをしたら一回五十円というように、お手伝いをしたお駄賃としてお小遣い

◆ 必要に応じて

をもらい、こつこつと貯金をする子どもも少なくない。中高生の一割ほどがこのもらい方をしているという。

家族のためにできることを探し、親と話し合っ額を決める。風呂洗いをしたら親に確認してもらい、洗い残しがなくするまでやり直す。「働いてお金を稼ぐことは大変」と分かるはず」と横山さん。最初は「やりたい」と思ったこと

は何でもやってみて、無理なく続けられることに絞っていくといい。

「頑張ったためにお金で買った物は、自分の宝物になる」と竹谷さん。「家族が喜ぶからと、お小遣いがもらえりたくなるかもしれない」とも。働くことのつらさ、喜びを感じながら家事ができるようになれば、将来、一人暮らし

皆さんがどう思ったかを送ってください。紙面で意見を紹介したお子さんの中から抽選で図書カードをプレゼント。応募は〒460 8511 中日新聞生活部「学ぶ」係=ファクス052(222)5284、メールseikatu@chunichi.co.jp=へ。QRコードから、ワークシート兼応募用紙もダウンロードできます。



意見送ってください